

特集

グローバル時代に羽ばたく君たちへ

目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 第16回（平成29年度）茗溪会賞受賞者紹介 …… 03 ～ 07
- 特集 グローバル時代に羽ばたく君たちへ …… 08 ～ 11
- 第33回教職受験対策研修会 …… 12 ～ 13
- 茗溪・東西南北 …… 14 ～ 15
- 平成30年度 茗溪会 公益・共益・広報等 年間行事計画 …… 16
- 筑波大学はいま …… 17
- 茗溪学園だより …… 18
- 平成29年度『茗溪フェロー』協力者ご芳名 …… 19
- 桐の葉のつどい …… 20
- 定時総会開催のご案内 平成29・30年度 茗溪会 代議員一覧 …… 21
- 著書紹介 …… 22
- 占春園再生プロジェクト寄付者ご芳名 …… 23
- 追悼録 …… 24
- 広報 …… 26
- 表紙のことば …… 26
- 編集後記 …… 26

茗溪



春

2018

平成30年

no.1097





日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金)9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考えた食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っています。



はぐくむ、大切なことすべて
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード
TEL.03-6632-5052 (代表)

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



■工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科
臨床工学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■看護学部

看護学科

理事長 中部謙一郎

常務理事 河野 隆二(S47農)

監査室 矢野 正人(S53院修 農)(神奈川茗溪会 会長)

教職センター 大畑多津雄(S52理 数)(同 副会長)

教職センター 望月 正大(S51理 数)(同 副会長)

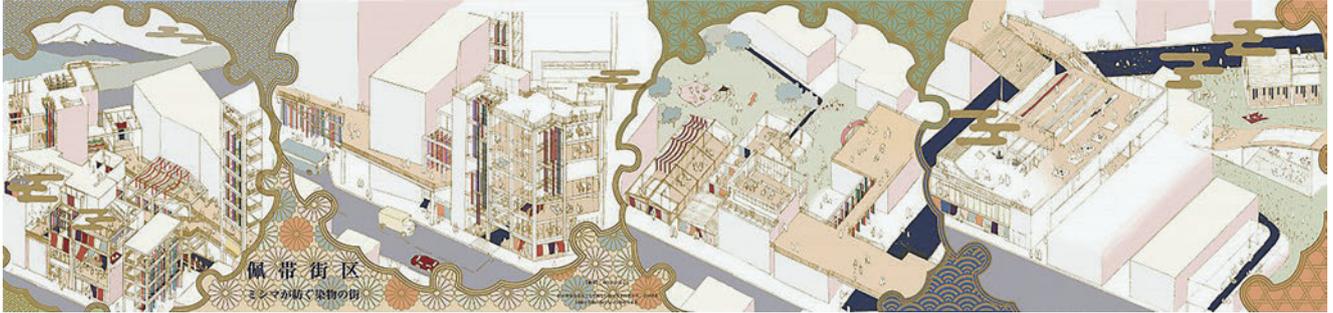
早期学生支援室 掛原 豊(S54農林学類)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

平成29年度 茗溪会賞 芸術部門受賞者



【佩帯街区—ミシマが紡ぐ染物の街—】

安部 遥香さん 推薦者 加藤 研先生
(建築デザイン領域)



【イヴの林檎】



古屋 花子さん 推薦者 仏山 輝美先生
(洋画)



瀧本 泰士さん 推薦者 太田 圭先生
(日本画)



【街路樹】

第33回（平成29年度） 教職受験対策研修会

平成30年3月4日(日)～6日(火)



集合写真



模擬授業



講義Ⅲ



個人面接



体験発表

第16回(平成29年度)

茗溪会賞受賞者紹介(大学院)

受賞者紹介

(順不同 敬称略)

●山形県村山市における「ばらの街、村山」としての地域振興支援活動

(ビジネス科学研究科 佐藤 祐子)



山形県村山市は「ばらの街、村山」を掲げ、生産振興や観光客誘致を目指しているが、東沢ばら公園以外のばら産業が乏しい。

佐藤さんは、自治体や地元企業等と連携して、市場調査を実施し、「ばらの街」としての施策提言を行った。当地で生産拡大予定のイチゴ「ニューハルミ」と、食用バラの抽出物を合わせたジャムを開発し、大量生産を予定している。本格的な生産開始は二〇一八年五月以降を予定している。商品は、六月開催のバラ祭りにおいて販売を開始するべく、パッケージデザインづくりを進めている。また、ブルガリアから苗を輸入した食用バラ「ダマスクスローズ」の栽培に向け、地元農家の協力を得て、雪解けを待ち植樹を予定している。収穫可能となるまでには二、三年かかり、今年はこの品種の当地での生育を試す一年となる。

●Tsukuba Workshop for Young Mathematicians @ 学生世話人およびGW STUDENTのTA

(数理解析学研究中心 佐々木 優)

佐々木さんは、二〇〇八年から毎年つくば市で開催されている若手数学者の研究発表とアジアの大学の学生との交流を目的とした研究集会「Tsukuba Workshop for



Young Mathematiciansにおいて、今年度の学生世話人として公式サイト開設、運営、プログラムの作成、研究会当日の設営を行った。公式サイト上で研究会の案内を公開し、数学専攻大学院生による研究活動・研究成果を社会に広く発信するなど社会貢献活動を行った。

また、大学が主体となつてトップ層の中高生をグローバルな視点を持つ科学技術人材に育てることを目的に、筑波大学が推進しているGFESTのTAとして受講生の中高生の指導の補助や助言を行い、受講生に対する特別実習の際には実習を手伝った。

●小中高生への理科教育啓蒙活動

(数理解析学研究中心 菊池 亮介)



菊池さんは、現在までの三年間、小・中・高校生に理科教育活動を行ってきた。大学院での研究では、液晶とフラレンを組み合わせた新しい光機能材料を合成し、顕微鏡でその構造を観察してきた。この研究を教育に生かし、自然由来で液晶を示す液晶高分子を簡便な方法で小中高校生に実際に作ってもらい、この構造色の仕組みを教えた。さらに電気伝導の仕組みや、静電気を感知する工夫に富んだ工作を子供たちに教えてきた。つくば市内の小学校やつくば科学フェスティバルで、自身の研究に派生した理科デモンストラーションを行ない、多くの将来ある子供たちに理科のすばらしさと楽しさを伝えた。

●守谷市「学生が輝く、まちづくり」再生プロジェクトの学生リーダーとしての活動

(システム情報工学研究科 遠藤 美弥)

守谷市みずき野地区では、高齢化と人口減少に直面す



るまちの諸問題の解決のため、学生が地域活動を行うことを条件に、地区内の空き家を無料で貸し出すプロジェクトを行っている。遠藤さんは、学生リーダーとして、地域住民と学生をつなぐ役割を担いつつ、学生の地域での活動を計画・実施した。主な実施内容として、学生間で地区の課題発見を行い、それをもとに地区の夏祭りにおいて、学生主催でワークショップ「みずき野思い出マップをつくらう」を行った。これは、住民を対象に、付箋に地区での思い出を書いてもらい、地図上の思い出の場所に貼ってもらうものである。企画後は、結果を冊子にまとめ、地区に全戸配布する他、学生の活動成果を地域住民へ発表した。

●常総市水害避難シミュレーションによる自動車利用避難効率化の提案

(システム情報工学研究科 若林 建吾)

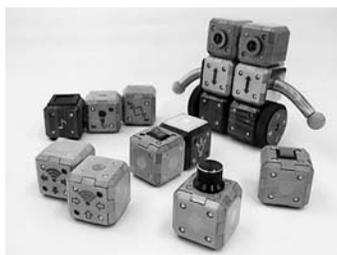


若林さんは、関東・東北豪雨による鬼怒川堤防決壊により水害の被害を受けた常総市を対象として、常総市防災訓練参加により把握した避難所まで遠い地域における駐車場不足等の問題点を踏まえ、交通マイクロシミュレーション技術を用いた水害避難の現状評価と自動運転技術を用いた避難効率化を提案した。この内容をもとに、常総市職員との勉強会を行い、避難行動や自動車利用の問題点を明らかにした。そして、遠距離克服のための自動車利用と混雑や

錯綜の少ない効率的な避難の両立が可能であることを示し、災害時の自動車利用上の改善案を提示することで同地域における防災活動に貢献した。

●子供のハードウェア教育用モジュール型玩具の開発

(システム情報工学研究科 川口 一画)



川口さんは、「近年のSTEM教育に対する社会的関心を背景とするハードウェア教育用モジュール型玩具に関する研究」の提案が、総務省SCOPE「異能AIoMプログラム」に採択され、実際にデバイス開発を行った。開発したデバイス「ヒカリツミキ」は、日本デザイン学会作品集への採択(デザイン学第11回キッズデザイン賞受賞(受賞番号171019)・特許の取得(特許6154524)等の成果を残した。またアウトリーチ活動として、各種展示会(つくばメディアアートフェスティバル2016、いばらきコンテンツコレクション2)に出展し、実際に子供たちが体験できる形での展示活動を行った。

●つくばチャレンジ2017における自律移動ロボットの屋外走行課題達成

(システム情報工学研究科 満留 諒介)



満留さんは、屋外遊歩道環境を走行する自律移動ロボットの公開技術チャレンジである「つくばチャレンジ2017」に、「筑波大学知能ロボット研究室チームKebecus」の中心メンバーとして参加し、つくば市長賞を受賞した。「つくばチャレンジ

2017」では、つくばセンター付近の2km区間におけるロボットの自律走行を行い、走行中には、横断歩道で信号機を自ら認識して通過するなどの課題を達成した(61台中2台のみ課題達成)。本学の技術力の高さを、市民をはじめとして多くの児童生徒へアピールしたという貢献は大きい。

●胸腔ドレナージユニットにおける低気相流量計測技術の開発

(システム情報工学研究科 岩上 聖)



岩上さんは、気胸治療最適化のために用いられている胸腔ドレナージユニットを抜去する指標となる100ml/min以下のエアリーク流量を、定量的に計測できる手法の確立に成功した。胸腔ドレナージユニットを模擬した実験装置および実機胸腔ドレナージユニットを用いた精緻な実験により、水封部入り口と出口における圧力変化が気泡発生と相関することを見出し、圧力計測から得られる気泡発生周波数を用いることにより、実機胸腔ドレナージユニットにおいて100ml/min以下の低流量域でのエアリーク流量が10%程度で定量的に計測できることを見出した。この成果は、工学と医学の進歩に大きく寄与するものであり、気胸患者の治療に貢献する成果である。

●昆虫を題材とした環境教育活動及び教育普及活動の実践

(生命環境科学研究科 藏満 司夢)

藏満さんは、昆虫学の専門性を活かして、環境教育活動及び教育普及活動に精力的に取り組んできた。まず、自身が発起人の一人である「つくばグ」の代表として、子供たちを対象とした自然観察教室を毎年三回程度実施した。また、公立図書館、博物館、学校等が主催した計六回の講演会で、のべ五百名以上の小、中、高校生や社



会人に対して昆虫学や生物学に関する最新のトピックを紹介、解説した。さらに、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の企画展に協力者として関わり、展示物の出展を通して、筑波大学での研究内容を広く社会へ発信した。

●就労に苦戦する引きこもり等の若者に対する発達支援活動

(人間総合科学研究科 北本 遼太)



北本さんは、グループ作りを通じた若者達の持つ様々な動き方の可能性の開拓を目的にプログラムを開発し、就労支援法人の協力のもと、茨城県西地区にて実施した。具体的には、この就労支援法人にボランティアとして参加しながら、インポート(即興ゲーム)を通してラポールを形成し、若者達の持つリソースを使って自分達のやりたいことを実現するための可能性を

模索するネットワーク作り研修を行った。一回当り三時間、全四回に一三名が参加した。自分達でネットワークを創造できることを若者達に体感させることができた。この活動は現在も続いており、若者達が実現したい企画をクラウドファンด์で資金調達して実現するプロジェクトに発展しつつある。

●教育テスト研究センターの連携研究員および教師の資質向上に対する推進運動

(人間総合科学研究科 三和 修平)

三和さんは、教育テスト研究センターの連携研究員と



1チ活動(研究の成果を発表し、勉強会を実施)を行った。

● 障害理解・啓発を目的とした活動

(人間総合科学研究所 石田 祐貴)



石田さんは、本学の大学院で、主に障害理解・啓発を目的とした活動を行ってきた。石田さん自身、Teacher Collins症候群という世間にはあまり馴染みのない聴覚障害があることから、このような障害の存在を知らせるために当事者の一人として自ら出演・講演を行い、自身の障害、生きている上で感じる困難、障害や困窮に対する自分なりの向き合い方などについて、社会に語りかけている。

● ホームレス状態にある人に対する総合的な生活支援活動の実践と運営

(人間総合科学研究所 平田 真基)



平田さんは、障害児の放課後等デイサービス事業の職員の傍ら、さいたま市を中心にホームレス者の支援活動で全国的にも有名なNPO法人「ほっとプラス」の立ち上げに関わり、現在、事務局長として、法人の企画運

営に関わっている。この法人は、公園や河川敷でホームレス状態にある人に声をかけ、生活や体調面の相談、住まいの提供、生活のサポート、地域における居場所づくりを行っている。このような多様な活動を運営している団体は、全国的にも珍しく、先駆的である。平田さんは本専攻における修士論文テーマをホームレスに陥る知的障害者の問題とその支援についてまとめ、その成果を、この法人の実践にも生かしている。

● 犯罪被害者、災害被害者及び救済者に対する支援活動

(人間総合科学研究所 藤代 富広)



藤代さんは、埼玉県臨床心理士会理事(被害者支援・災害支援担当)、日本臨床心理士会司法矯正領域委員会委員、日本心理臨床学会支援活動委員会委員、日本トラウマティック・ストレス学会被害者支援委員会委員、日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士の資格向上に関する調査研究基礎調査検討委員会委員などを歴任し、わが国における犯罪被害者や災害被災者、救済者に対する心理支援に関する研究及び活動の推進に貢献した。さらに、これらの社会的活動により得た知見を踏まえ、筑波大学大学院人間総合科学研究所生涯発達科学専攻において、警察官のメンタルヘルス及び惨事ストレスの組織的な対策に関する研究を進め、わが国のこの領域の発展に貢献した。

● 効果的な感情マネジメントスキル育成法を用いた看護教育支援活動

(人間総合科学研究所 金子 多喜子)

看護師は、勤務自体の厳しさに加えて、患者の苦痛を



受けとめる中で燃え尽き症候群になったり、そのことで退職してしまう場合も少なくない。金子さんは、そうした状況を変えるために、看護師に対して感情的な対処方略を促進するための心理教育プログラムを開発・実施し、その効果を検証する独創的な研究を行っている。こうした研究成果を、終末期ケアに携わる看護師のメンタルヘルス向上や、新人看護師を指導するための教育研修を通して広く発信している。また、大学における看護教育においても著書を活用しながら、患者や自己の感情に向き合う中で感情調整するスキルについて教授活動を行っている。このような継続した活動は、看護の質を向上するとともに患者の健康維持にもつながるものである。

● NPO法人LD: Dyslexiaセンターにおける言語障害児への支援

(人間総合科学研究所 狐塚 順子)



狐塚さんの博士論文は、「小児期に起きた大脳損傷によって生じる言語障害である小児失語症の特徴ならびに改善経過に関する研究」である。この中で、小児失語症のリハビリには、高次脳機能障害としての側面と言語発達の途上であるという側面との、両方からのアプローチが必要であることを明らかにした。そして、狐塚さんは、先行研究や博士論文で得られた知見に基づき、NPO法人「LD・Dyslexiaセンター」において、小児失語症や発達性読み書き障害などのお子さんとそのご家族に対し、言語障害の評価、対応の仕方に関するアドバイス、読み書きの練習

支援などの活動を行っている。そのほか教育機関や医療機関との連携を行っており、教育的・社会的支援活動における功績は多大である。

●筑波大学付属病院におけるアート活動の発信と福祉分野への提案

(人間総合科学研究所 高橋 和佳奈)



高橋さんは、修士論文のテーマである「病院におけるアート活動の研究」を活かして、障害者が病院でアーティストとして活動するアイデア「パリサーチ!! +アーティスト・イン・ホスピタル」を、2016年Good Job! Student Award (学生による「障害者の新しい働き方や暮らし方のアイデア」コンペティション)に提案・入選し、そのアイデアパネルが渋谷ヒカリエ8/COURTで展示された。

この活動によって、病院におけるアート・デザインの取り組みを広く発信し、障害者が社会で活躍する場としての病院アートの可能性を、福祉関係者をはじめ広く社会に向けて提案した。

●共同研究による新規サービスの実現と米軍指定高大連携への貢献

(図書館情報メディア研究科 武田 直人)



武田さんは、企業と共同研究を進め、「出産」や「就職」などを経験したユーザのブログ記事を分析することにより、これからライブイベントを経験する人にとって有用な情報を推薦する手法を開発した。成果は、新社会人や主婦などの若者向けのサ

ービスとして利用される予定である。トップカンファレンスであるACM SIGIRに論文が採択され、国内の学会においても表彰を受けるなど、学術面での評価も高い。また、米軍子弟高大連携に基づき、英語による講義の補助を務めた。武田さんは、講義のポイントを的確かつ真摯に伝えることで、理解を深めた多くの生徒から深く感謝された。

●子供の個性を生かしたアート教育の推進活動

(教育研究科 森田 亮)



森田さんは、特別支援学校における豊富な実践経験をもとに、子どもの個性に対応したアートによる学習支援を模索し、その成果は「教育美術賞」佳作賞を2度も受賞し、広く社会に発信されてきた。今年度、現職教員1年制プログラムの在籍し、重複障害児の美術科指導における目標設定ツールを開発し、その有効性を検証した成果を勤務校の教員間や保護者と共有しつつ、学会等でも積極的に発信している。さらに、つくば市近郊の子どもたちを対象にした夏休みの「アートたんけん隊」で、研究成果を生かした実践を行い、子どもの個性を引き出すアート教育を推進し、筑波大学のアート・リソースを子どもや保護者にわかりやすく伝えることに貢献した。

●アシスティブ・デバイスアート研究の推進とアウトリーチ

(グローバル教育院 Aisen C. Chacin)

アイسن・チャシンさんの研究テーマは、芸術と工学

の分野横断型の研究であり、人間が音の反射に基づいて空間を認識する機能に着目し、視覚的には見えない空間を知覚させることをテーマにした芸術作品について論じている。Echolocation Headphones と TukaTaka の2作品を制作し、美学的意義の考察と、工学的有用性の両面から研究を行った。これらの作品は、米国、オーストリア、フランス、スロベニアなどにおいて多くの招待展示を行っており、CBC NewsやNY Timesなどのマスメディアにも取り上げられている。研究成果を発表するに留まらず、参加者のフィードバックを研究に活かしている。美術展は一般社会に開かれたものであるため、アウトリーチの面で大いなる意義がある。



受賞者紹介 (芸術部門)

※作品はグラビア頁をご覧ください。

●イブの林檎

(洋画 古屋 花子)



作品…油彩 パネル
製作年…二〇一八年

寸法…縦 324 cm 横 162 cm 奥行 5.0 cm

世話人(指導)教員名…仏山輝美
若溪会賞以外の入賞…無
選考委員会開催時の作品所在…

6 A棟3・4階の踊り場

● 街路樹



(日本画 瀧本 泰士)

作品：板、石膏、麻布、
岩絵具、水干絵具、
箔
製作年：二〇一八年

寸法：縦・高さ 227・3 cm 横・幅 568・3 cm

世話人(指導)教員名：太田 圭
茗溪会賞以外の入賞：有
選考委員会開催時の作品所在：5 C棟 306脇 廊下

● 佩帯街区ーミシマが紡ぐ染物の街ー



(建築デザイン領域 安部 遙香)

作品：MDF板、
ダンボール、
黄ボール、
クラフト紙
製作年：二〇一八年

寸法：

(パネル) 237・6 cm
(模型1) 41・0 cm
(模型2) 7.0 cm
57・2 cm 182・0 cm 232・3 cm
44・5 cm 182・0 cm 0.5 cm

世話人(指導)教員名：加藤 研
茗溪会賞以外の入賞：無
選考委員会開催時の作品所在：6 A 307

平成29年度 茗溪会賞 (大学院修了者) 受賞者・活動テーマ

研究科	専攻	受賞者氏名	推薦専攻長	テーマ
ビジネス科学研究科	国際経営 プロフェッショナル	佐藤 祐子	徐 驊	山形県村山市における「ばらの街、村山」としての地域支援振興支援活動
数理工学 科学研究科	数学	佐々木 優	加藤 久男	Tsukuba Workshop for Young Mathematiciansの学生世話人およびGFESTのTA
	物性・分子工学	菊池 亮介	日野 健一	小中高生への理科教育啓蒙活動
システム情報 工学研究科	社会学	遠藤 茉弥	吉瀬 章子	守谷市「学生が輝く“まち”」再生プロジェクトの学生リーダーとしての活動
	リスク工学	若林 建吾	遠藤 靖典	常総市水害避難シミュレーションによる自動車利用避難効率化の提案
	知能システム	川口 一画	森田 昌彦	子供のハードウェア教育用モジュール型玩具の開発
	知能機能システム	満留 諒介	森田 昌彦	つくばチャレンジ2017における自律移動ロボットの屋外走行課題達成
	構造エネルギー工学	岩上 聖	武若 聡	胸腔ドレーナージュユニットにおける低気相流量計測技術の開発
	生命環境 科学研究科	生物圏資源科学	藏満 司夢	大澤 良
人間総合 科学研究科	心理	北本 遼太	原田 悦子	就労に苦戦する引きこもり等の若者に対する発達支援活動
	心理	三和 修平	櫻井 茂男	教育テスト研究センターの連携研究員および教師の資質向上に対する推進運動
	障害科学	石田 祐貴	野呂 文行	障害理解・啓発を目的とした活動
	生涯発達	平田 真基	小澤 温	ホームレス状態にある人に対する総合的な生活支援活動の実践と運営
	生涯発達科学	藤代 富広	藤生 英行	犯罪被害者、災害被害者及び救援者に対する支援活動
	ヒューマン・ケア 科学	金子多喜子	庄司 一子	効果的な感情マネジメントスキル育成法を用いた看護教育支援活動
	感性認知脳科学	狐塚 順子	小川 園子	NPO法人LD：Dyslexiaセンターにおける言語障害児への支援
	芸術(博士課程前期)	高橋和佳奈	太田 圭	筑波大学付属病院におけるアート活動の発信と福祉分野への提案
図書館情報メ ディア研究科	図書館情報メディア	武田 直人	佐藤 哲司	共同研究による新規サービスの実現と米軍指定高大連携への貢献
教育研究科	教科教育	森田 亮	新井 達郎	子供の個性を生かしたアート教育の推進活動
グローバル 教育院	エンパワーメント 情報学プログラム	Aisen C.Chacin	岩田 洋夫	アシスティブ・デバイスアート研究の推進とアウトリーチ

平成29年度 茗溪会賞 (芸術部門) 受賞者・作品名

所属	領域	受賞者氏名	推薦専攻長	作品名 (作品の概要)
芸術専門学群	洋画	古屋 花子	仏山 輝美	「イヴの林檎」
	日本画	瀧本 泰士	太田 圭	「街路樹」
	建築デザイン領域	安部 遙香	加藤 研	「佩帯街区ーミシマが紡ぐ染物の街ー」

グローバル時代に 羽ばたく君たちへ

(株)ユーハイム会長

河本 武さんからの

メッセージ

筑波大学の卒業生は、かつてのように研究や教育の分野に進むよりも、産業界に進む人の方が多くなりました。

しかしながら、産業界に太いパイプのある大学に比べて、産業界にそれほど多くの先輩のいない筑波大学の卒業生は、これまでも、そしてこれから、自ら新たな道を切り開いていくことが求められています。

幸い、いま世界はグローバル時代を迎え、わが国の産業界でも、古い伝統やしきたりを打ち破り、世界に通じる新しい発想の仕事のあり方や新しい商品(コンテンツ)の開発が急がれています。

これは、「未来を構想する大学」としてスタートした筑波大学の卒業生にとって、大きく羽ばたくチャンスが目の前にあるということでもあります。

そこで、著溪の数少ない経営者の一人である株式会社「ユーハイム」の会長の河本武さんに、会社のトップとしてどのような経営理念を持って進んでこられたのか、また、わが国の産業界はいまどのような課題を抱え、それに立ち向かうためにどのような人材を求めているのかなどについてお話を伺いました。

聞き手は、公益・広報等委員会の早川源一が担当いたしました。

【河本さんの学生時代】

東京教育大学に入学

——本日はお忙しい中、お時間を取っていただき、ありがとうございます。

まず、河本さんの学生時代からお伺いします。岐阜県の加納高校から東京教育大学の体育学部に入されたとのことですが、なぜこの大学へ進学されたのでしょうか。

河本 高校時代は、陸上競技、特に棒高跳びに熱中していましたが、そのときの指導者に勧められたことと、一時教員をし、サッカー部の監督であった父親(河本春男)が東京高等師範学校(東京教育大学の前身)出身であったことが、この大学を選んだ理由です。

——河本さんの学生生活はどのようなものでしたか。
河本 大学でも、高校時代に始めた棒高跳びに夢中になりました。特に2年先輩の安田矩明さんに指導を受けましたが、安田さんは在学中に日本記録を更新して、第1回ユニバーシアード大会で優勝し、ローマオリンピックにも出場している方です。安田先輩の指導は「跳ぶときには顎を引け」などと具体的に的確だったので、ぐんぐん記録が伸び始めました。ところが、2年になったばかりの春先に、練習中突然目が見えなくなってしまうしました。結核性眼底出血でした。医者にも運動はだめだとストップをかけられまして、泣く泣く競技生活に終止符を打ちました。



【河本 武さんの略歴】

- 1962 東京教育大学体育学部健康教育学科卒業
- 1964 東京教育大学大学院教育学研究科単位取得退学
(株)ユーハイム入社
- 1985 (株)ユーハイム社長就任
- 2015 社長職を長男英雄氏に譲り、会長就任

——それは、辛かったですよね。

河本 そのときは、文字通り目の前が真っ暗になりましたが、若さの力でしょうか、目がだめなら耳を使おうというように切り替えて、目が回復し出すと大学での勉強に熱中しました。特に、英語とドイツ語の習得に全力で取り組み、大学の授業に潜り込んだり目白にある語学専門学校に通ったりして、余ったエネルギーを全部つぎ込んでついにマスターすることができました。こうして、勉強の面白さに目覚めて、体育学部には大学院がなかったので教育学部の大学院に進学して、研究者への道を目指し始めました。

——大学院では、どのような研究をされましたか。

河本 大学院では、素晴らしい先生であった阿部三亥主任教授のもとで体育生理学の研究に没頭しました。2年間ですべての単位を取得して論文を作成していましたが、その最中に恩師の阿部教授が胃がんとなって亡くなられてしまいました。新しい指導教官からはそれまでの研究テーマを変えろと指示されたりしたため、研究を続ける意欲をなくしてしまい、論文未審査のまま単位取得退学をしました。ただ阿部先生には、学問の仕方、特に仮説の立て方をしっかり教わりました。結局、研究者への道は閉ざされましたが、このとき学んだ仮説の立て方が、その後の経営や商品開発などで新しい方向性を示すときなどに大いに生きています。そういう意味で、一生の財産となったわけです。

【ユーハイムへの入社】

「お菓子の勉強にドイツに行きませんか」で入社決意

——大学と大学院で2回の挫折を味わった後、お父様が経営に参加されていたユーハイムに就職されました。河本 二度目の挫折を味わった後、父も経営に参加していた「ユーハイム」の創業者で社長だったエリーゼ・ユーハイム夫人に会う機会がありました。そのとき、「あなた、お菓子の勉強にドイツに行きませんか」と誘われまして、憧れのドイツに行けるということで二つ

返事で入社を決意しました。そのときの入社条件として、「菓子屋になるんだから、タバコは吸わないでください」、「舌に教養をつけてください」と言われました。そして、これからはグローバル時代になるのだから「複数の外国語に精通してください」と言われました。

——入社するとき、専務であったお父様からは、何かお話しがありましたか。

河本 父からは、「商人になると決めたのだから、学者になりたいという夢やプライドは捨ててきなさい。ギヤチェンジするために、そして数字に強い経営者になるために、税理士の資格を取ってきなさい」と言われました。こうして、4つの条件（タバコは吸わない。複数の外国語に精通する。本気で商人になるという覚悟を持つ。税理士の資格を取る。）を約束して、1964年9月に、24歳でユーハイムに入社しました。

東京オリンピックを迎え、高度成長期に向かう頃

——それが企業人としての出発点だったのですね。その頃の産業界やユーハイムの状況はどんなものだったのでしょうか。

河本 1964年というのは、東京オリンピック開催の年です。高速道路や東海道新幹線が開通するなど、戦後約20年たって、まさに戦後の停滞期から勢いよく復興し始めた活気あるときでした。その当時のユーハイムは、社員数100人、店舗数20店、工場2つ、年商7億円、社員の大半が中卒という神戸の中小企業そのものでした。教師の経験があったからか、父の河本春男は、教育の大切さを考えている人として、社内に「ユーハイム学校（夜学）」を設立して、中卒の社員が2年間通えば高卒の社内資格を与えるという制度を作って、社員の教育に力を入れていました。やがて、基礎学力のある社員が必要だとして、高校生・大学卒の社員を採用するようになっていきました。



【早川源一さんの略歴】

- 1976 東京教育大学東洋史学専攻卒業
- 2013 茨城県立高等学校長定年退職
- 2016 一般社団法人茗溪会公益・広報等委員会委員

ドイツ留学と世界の見聞を広げることが成長のきっかけが、社員として働いていた時期で思い出になっていることはあります。

河本 私は、入社して販売を1年、製造を1年経験した後、3年目、27歳のときに1年間ドイツ留学をしました。ドイツのハノーファーの工場で働いた後、菓子学校（マイスター・シューレ）に入社しました。その間ドイツを中心に世界を見て回りました。モントリオール万博やデイズニールランドを見たり、パリ・ニューヨークなど欧米の主要都市を見学するなどして、世界の見聞を広げることができたことが、企業経営やその後の人生の道筋づくりに大いに役立ちました。帰国後は、ドイツで学んだ菓子情報を積極的に活用しました。例えば、当時生菓子づくりはバタークリーム全盛でしたが、ドイツを見習って生クリームに切り替えたり、主力商品をビスケットからドイツを代表するパウムクーヘンに変えたりしました。さらに、わが社の菓子職人に2年間のドイツ研修をさせたり、フランクフルトのゲーテハウスに開店したり、東京デイズニールランドとスポンサー契約をするなど、海外展開や海外との契約締結にも尽力することができました。

ユーハイムの社長として「潰すな、威張るな」を胸に

——入社後約20年たった昭和60年に、取締役社長になら

れましたが、前任者のお父様からはどのような引き継ぎがなされたのでしょうか。

河本 父から社長を継いだときは、「潰すな」と「威張るな」の2つのことを言われました。「潰すな」は当然のことですが、「威張るな」については、実践することの一つとして「公用車には決して乗らない」と誓いました。いまでも公用車は使っていません。先日の雪のときも電車通勤して社員と一緒に遅刻してしまいました。会社では、社員が一番大切です。リーダーというのは公明正大であるべきだと思います。そして、社長というのは、「社員の物心両面の幸せを追求するのが自分の務めである」と心底から思えるようになって初めて与えられるポストであると考えています。

全社員を創業の地青島に集め、創業百周年記念研修

——河本さんが社長をされているとき創業百周年を迎えられました。その2009年に全社員を青島に集め、大々的に研修を含めた行事を行ったということですが、その意図はどのようなものだったのでしょうか。

河本 弱冠22歳のドイツ人青年カール・ユーハイムが、1909年に中国山東省青島のドイツ居留地で創業してから、二度の世界大戦に巻き込まれながらも、1922年に横浜に日本におけるユーハイム1号店を開くなどして、幾多の苦難を乗り越えて来ました。そして、私が社長であった2009年に創業からちょうど百年を迎えることになりました。そのときどんな記念事業をやるかについていろいろ考えた末に、会社はお菓子を買ってくださるお客様と会社のために一生懸命働いてくれる社員のお陰でここまで来られたのだから、この社員と共に百周年を祝いたいと思いました。そして、カールとその妻エリーゼの波瀾万丈の創業の物語に現地でも触れることによって、その魂に感応して仕事に立ち向かってほしいと思って、社員800人全員を創業の地青島に立つてもらいました。そのとき、社員たちの未来を切り開く力になるものと考え、社内に散らばっていた創業者夫妻や元社長たちの魂の言葉を整理して

研修のテキストを作りました。それが、『ユーハイム・ウエイ100訓』ですが、社員はこれを聞き皆喜んでくれました。ドイツの民間伝承に「過去を敬う者が、未来を確かなものにする。」という言葉があります。文字通り創業の原点から、未来へと向かいたいと考えたのです。



「グローバル時代を迎えたわが国の産業界」

「パンゲアの扉 つながる世界」

—河本さんご自身は、英語、ドイツ語、フランス語を駆使され、通訳なしで交渉を行うと伺っております。また、ユーハイムは、フランクフルトやパリにも海外進出したと伺っております。河本さんはまさしく、グローバル化の先頭を走っている企業人です。

—そこで、世界を舞台に活躍されてきた河本さんから、「世界の産業界の動きとそこで活躍するための人材」についてお話を伺いたいと思います。

河本 よく「グローバル化」といわれますが、世界の動きは、グローバル化というよりもっと一体化が進んでいくと思います。その例として、今年の日本経済新聞の正月の特集は、「パンゲアの扉 つながる世界」というものであります。パンゲアとは、ギリシア語起源の「すべての陸地」という意味で、約3億年前、大陸移動が起こる前には、現在ばらばらになっている大陸が巨大な一つの塊であったと想定されているそうです。その大陸の名称が、パンゲア（超大陸）と言うのですね。そのように、世界はデジタルの力で境界が溶けていき、今までのグローバルバリエーションとは違う、3億年前には一つの塊であったような新たなつながりへの扉が開いたのだといえます。そうすると、すべてが国境など感じず往来するようになるでしょう。そうすると、いろいろ今までは異なる動きが出てきて、人の出入りという難民の問題なども起こってくると思います。

—さらに大きな問題は、人口問題です。今年、明治維新からちょうど150年になりますが、この150年で人口が急増しました。明治初期には3500万人に満たなかった日本の人口が、大正に5000万人、昭和に6000万人を超えて、1967年に1億を超え、今世紀には1億2700万人台になりました。しかし、2000年代半ばから減少に転じ、2050年代には1億を切り、2115年には大正期と同じ5000万人に戻ると想定されています。日本の急激な人口減少が大きな問題となります。その一方で、世界の人口は今後も急増し、2015年の73億が、2050年には99億、2100年には112億人と推計されています。世界は急増し、日本は急減する人口問題は、いろいろな問題を生じさせると考えられます。

—今後の展望といっても、そう簡単には予測できないし、こうなるとは軽々には言えません。未来というのは、本来「未知のもの」です。カールもエリーゼも100年後に青島に800人の社員が立つとは想定していません。想定どおりの未来は、錯覚された過去に過ぎないのです。未来は、不確定で不透明でリスク

なものです。なかなか見通せないことに面白さがあると思います。

「パンゲア」の時代には「人間的偏差値」が求められる

—そういった新しい時代の産業界で生きていく若い人たちは、どのようなものが求められるのでしょうか。

河本 なかなか先が見通せないし、パンゲアというぐらゐ世界が一体化し、大きな変化が予想されるこれから生きていく若い人たちは、いわゆる知的な偏差値だけではなく、「人間的な偏差値」の高さが求められると考えています。それには、スキルとマインドとパーソナリティの3つが必要です。スキルとは、知識や技能ですが、仕事の仕方や考える力、他人とのコミュニケーション力などの能力で、まずきちんとした仕事ができることがすごく重要です。そして、マインド、つまり志や思いやる心と、パーソナリティ（美德）、つまり世のため、人のため働くという心根をもつことであり、利己よりも利他を考えることのできる人であってほしいと思います。

「グローバル人材」の第一条件は外国語ではない

—また、いわゆる「グローバル人材」になるためには、どのような力を付けるべきだとお考えですか。またユーハイムでは、どのような取組みをされていますか。



河本 グローバル人材とは、別な言葉で言えば、「自分の意見を持ち、仕事ができ、外国語でコミュニケーションできる能力があり、奉仕の精神で世のため人のために尽くせる人材」だと思います。ユーハイムはドイツの菓子会社ですので、これまで40年にわたって社員をドイツに留学させてきています。2年の留学期間の中で、まず語学学校に通ってドイツ語を学習した後、工場で実際に菓子作りをし、最後にマイスター・シユールという学校でマイスターの資格取得を目指すという制度です。これまでの様子を見ていますと、どうも外国語学科を卒業して語学が得意な社員よりも、語学はできなくとも仕事ができる社員を送り出して、無理やりでも語学を学ばせた方が大きな成果を上げています。だからこそ、先ほど話した「人間的偏差値」が重要なのだと痛感しています。



【産業界で活躍する人材とは】

茗溪人は、裁量する立場に立つと実力を発揮する

—— 教職や研究職につくことが多かった東京教育大学の卒業生に比べ、総合大学としての筑波大学になって、産業界など多方面の職種に就職する傾向が出てきております。そこで、産業界で仕事をしている茗溪人やこれから産業界をめざす学生たちに対して、アドバイスをお願いします。

河本 私の会社でも、東京教育大学や筑波大学の卒業生

は少数派です。しかも私立大学出身の人付き合いの上手な世慣れたメンバーと比べて、目立たない人が多いようです。企業などでは上司運というか、いい上司に巡り会って上司に引き上げてもらうことも大事なことになるので、先輩が少いということは不利な点もあると思います。また、茗溪出身の中には、同じ大学出身どうしが団結したり協力したりすることをあまり良くないと考える方もいるようで、独力で頑張らざるを得ない状況もあるようです。私は、筑波大学出身者はもう少し団結された方が良いのではないかと考えています。

—— ユーハイムの社員の中にも茗溪出身者がいるとのことですが、何か茗溪出身者の特徴的なことなどありませんか。

河本 私の会社にも、東京教育大学の卒業生が二人いました。二人ともどちらかというと、人間関係づくりが私立大学出身者に比べて苦手であったようです。一人は農学部出身で、もう一人は文学部（経済）出身でしたが、課長になるまではどうもくすぶっている印象でした。ところが、部長になるととたんに頭角を現し始めました。さらに、支店長・工場長・事業部長等などのラインの長になると、本領発揮といった成果を上げるようになりました。これは、学生時代に培ったミニマム・エッセンシャルズのお陰だと思っています。いわゆる基礎となる学力が高いですね。このように、私の経験から見ると、東京教育大学・筑波大学の卒業生は、重しが取れて自分の裁量で事が行えるようになったとき、実力を発揮する傾向があると思います。ですから、学生時代にしっかりと頭と心と体を鍛えておけば、幸運の女神が降りてくる可能性が大きいし、それが来たときに本当の力を発揮できるのです。そのときのために、研鑽を積んで本物の力をつけておいてほしいと思います。

筑波大学の卒業生は期待されている

—— 河本さんは、「筑波大学河本体育科学研究奨励賞」を設けて筑波大学の体育科学系の中堅・若手研究者の研

究活動を支援するなど、筑波大学の学生に勇氣と希望を与えておられます。最後に、筑波大学に在学中の学生たちに何かメッセージをお願いします。

河本 福沢諭吉も、「若者は、未来から来た留学生だ」と言っています。私も、若い人たちに大いに期待したいと思っています。特に、筑波大学の現役の学生さんには、「大学時代は人生の華である」という自覚を持ってほしいと思います。学生時代は、人生の中で、自由で時間に恵まれた幸せなときであり、成長期でもあるという自覚が大切です。なのに、学生時代を急いで駆け抜けようとする向きもあります。それは、その先に人生があると思うからでしょう。そうではなく、「一日一生」と、大学生として今を大切に生きることが重要です。勉強したり、資格や免許を取ったり、外国語を習得したりというのは、学生時代が最適です。私も、学生時代に棒高跳びに打ち込んだり、それができないとなると語学習得に打ち込んだり、さらに学問に打ち込んだりとしたことが、その後の人生に大きく役立っています。流れに任せて、素直に真面目に取り組む学生であってほしいと願っています。

また、ウォルト・ディズニーが「If you can dream it, you can do it」と言っていますが、夢を持てば半分達成したようなものだと思います。早めにitを見つけてほしいと思いますが、夢だけでは何も起きません。夢を実現させられる「構想力」を持てるよう、大学時代を過ごしてほしいと思います。大学生としての目標をぜひ決めて努力してほしいと思います。

筑波大学の学生の皆さんは、期待されております。野村証券投資情報部の本に「未来技術に投資しよう」（日本経済新聞社）があります。これには、日本発「金の卵」を筑波大学に探しに行こうとあるように、筑波大学には大きな可能性があると見られています。ぜひ、自信を持って日々の努力を続けてほしいと思います。

—— 河本さん、本日は大変お忙しい中、様々な興味深いお話をお聞かせ頂きまして、本当にありがとうございます。

第33回 教職受験対策研修会から

第33回教職受験対策研修会が、教職を希望する筑波大生を対象に3月4日(日)から6日(火)までの三日間、今回初めて筑波大生芸棟4階の5教室で実施しました。また、今回は「教職研修グループ」(代表 高橋基之本会理事)を中心となって本会主催・筑波大共催で運営しました。しかし共催の決定が遅れたこともあり、目標の50名に対し、今回の受講生は35名(当日欠席1名を除く)にとどまりました。

【第一日】

*開講式

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアアセンダー長の五十嵐浩也氏、本会「大学つくば地域支援委員会」委員長の佐藤忍氏(S60筑博生物、生命環境系教授、本会理事)のお二人から本研修会の歴史や意義など、受講生を激励する挨拶をいただきました。

*講義I 「教員採用試験の概要と対策」



高橋基之氏

実践女子学園女子学園中学校高等学校校長で、この研修会の運営代表者でもある高橋基之氏(S53筑一自然)による講義で、理念と評価の一致・確かな学力など新教育課程の重点項目、受験生に求められる教師像、全国の教育を牽引する役割を担ってきた本学同窓生



中島博司氏

の活躍、これからの教育界を担う受講生への期待などについて熱く語られました。受講生からは、採用試験の実態がよくわかり、本気で取り組む必要があると感じたなどの感想がありました。

*講義II 「アクティブ・ラーニング2018」

茨城県立並木中等教育学校校長で本会代議員でもある中島博司氏(S57筑一人文(日本史))による「アクティブ・ラーニング(以下ALと略記)の実践的な側面での講義で、新教育課程における「主体的・対話的で深い学び」をALと定義し、能動的学習者の育成がその目的であること、実践に当たってはR80という氏独自の振り返りメモを活用したALの再構築、上級生が下級生に教えることも含む対話、他人に対する敬意をキーワードとすることなどを具体的に説明されました。

*講義III 「教師のやりがいについて」

埼玉県立川越総合高等学校校参事、元埼玉県立浦和第一女子高等学校校長で「教職研修グループ」の一員でもある平野正美氏(S54筑二比文(英語))による、教育の意味、教育者としての本来的あり方について、また現在の教育者が直面する現実について体験を交えながら分かりやすくかつ熱い説明がありました。受講生からは、学校教育現場がブラック化している現実があり、地域や外部機関との連携で対処することに感銘を受けたという感想がありました。



平野正美氏

の活躍、これからの教育界を担う受講生への期待などについて熱く語られました。受講生からは、採用試験の実態がよくわかり、本気で取り組む必要があると感じたなどの感想がありました。

*体験発表・懇談



①中野愛美さん



②竹林尚輝さん



③結束萌花さん



④関根貴則さん

教員採用試験に合格した学生・院生4名がテキストに記載された各自の合格体験記に基づいて全体及び各班別に体験発表を行い、今年度の受講者の疑問や質問に丁寧かつ的確に答えてくれました。受講生にとって、受験の生の声を聞くことができ、対策を立てるための貴重な情報になったという回答が多く寄せられました。

①中野 愛美 東京都 中学校 英語

②竹林 尚輝 茨城県 高校 英語

③結束 萌花 茨城県 中学校 英語

④関根 貴則 茨城県 高校 英語

*演習 論文作成

論文作成について、テキスト記載の「論文作成のポイント」に基づいて平野正美氏から説明があり、与えられたテーマに対する論文を受講者全員が約2時間で作成し、平野氏に提出しました。この論文は、第二日の講義IVの間に指導助言の先生方が添削し、第四日の論文検討の時間ではそれらを各班で共有し検討しました。

【第二日】

*講義Ⅳ「新しい教育課程について」

桐蔭横浜大学法学部教授、元国立教育政策研究所統括研究官で「教職研修グループ」の一員でもある矢田部玲生氏（S56筑修教）による講義で、新学習指導要領についてその背景と課題意識、学校現場で取り組むべき課題、教職受験での対応などを、34ページに及ぶ資料を用いて具体的に説明され、茗溪会員の活躍も話題にされました。受講生からは、学習指導要領の深い意味を知った、学習指導要領をきちんと理解する必要があるなどの感想がありました。

*演習 指導案作成

筑波大学教職受験合格対策の協力者で「教職研修グループ」の一員でもある武井秀一氏（S54筑一自然（化学））から指導案作成の資料に基づいて説明があり、約1時間で指導案を作成しました。指導案作成中に、受講生からの質問に応じて指導助言の先生方から指導助言がありました。受講生のアンケートでは、指示が不明確、時間が足りないなどの感想がありました。

*グループワーク 場面指導

第二日午後からは5つの班に分かれたグループワークが続きます。この場面指導では、生徒指導or保護者対応の課題について、教師役1名・生徒or保護者役数名がグループとなり15分で役割を演じることで、それぞれの立場へのイメージを広げました。



武井秀一氏

*グループワーク 模擬授業

午前中に作成した学習指導案を用いて教師役、他の班員が生徒役となって、全員が10分



及川良一氏(左)、武井一郎氏(右)

程度の模擬授業を行い、指導助言の先生、チューターの学生、生徒役からのフィードバックを通して、より完成度の高い授業ができるようになったと思われま

【第三日】

*グループワーク 集団面接

各班を受験者チームと観察者チームに分け、指導助言の先生とチューターが面接官となり、志望動機、部活、A.Lなどの課題に集団で答えました。観察者チームからの個別のフィードバックによって集団面接について良い知見が得られたと思います。

*グループワーク 個人面接

各班を受験者1名、面接官数名のグループに分け、それぞれの役割を演じることで個人面接を実施しました。5分程度で次々に交代しグループ全員が終了したところで評価表を用いてフィードバックを行い評価しました。これによって個人面接の客観的なイメージが把握できたと思います。

*グループワーク 集団討論

各班の5〜6名全員が、課題の選択（配布資料）・結論・根拠・発言等について5分程準備した後、集団討論を演じました。その後、指導助言者とチューターから課題へ

の向き合い方、発言内容等についてアドバイスを受けました。

*グループワーク 論作文検討

一日目に作成し二日目に指導助言の先生が添削した論文を班員分配布し、各作成者が音読し、指導助言の先生が添削箇所について説明し、論文の構成などについて講評しました。

*閉講式

高橋基之氏から、この研修会の教職受験での生かし方、合格後の心構え、教育界における茗溪の役割などについて熱意のある講話があり、写真撮影を行って解散しました。その後、SNS (Facebook) を通じてこの研修会のアンケート集計や情報交換を行っています。

【振り返り】

昨年度は本会の委員会の一つである「広益・広報等委員会」がこの研修会を運営しましたが、今年度は「大学つくば地域支援委員会」（委員長 佐藤忍 本会理事）の中の「教職研修グループ」（代表 高橋基之 本会理事）が運営し、グループ員のメンバーの多くが指導助言の役割を担いました。各自自治体での教職受験についての相談窓口を各地域の会員の方にお願ひしてきましたが、次回も受講生の相談や茗溪会への入会サポートなどをしていただけると幸いです。

受講生からは、この研修で教職受験について理解できたので対応する心構えができた、などの感想があり、二日間同じ指導助言の先生ではなくてもよい、2次試験直前に例えば個人面接などの研修があったら是非参加したい、という要望が多数ありました。

次の教職受験対策研修会は、学生が受講しやすいよう時期を早めて2月9日（土）〜11日（月）、大学と共催で会場は大学を予定しています。

（教職研修グループ代表、茗溪会理事

高橋 基之（S53筑一自然（地理））

茗溪・東西南北

青森茗溪会活動報告



茗溪会青森支部では、例年8月のお盆過ぎ頃に総会を開催しています。できるだけ参加しやすいようにと、会場は青森市、弘前市及び八戸市の三地区をローテーションしています。

平成29年度は、青森市を会場に開催し、19名が参加しました。例年の傾向として、教育関係者、とりわけ体育関係者の参加が大半を占めていますが、今回は初めて医学専門学群卒業生が参加するなど、様々な情報交換の場となりました。

毎回のことですが、参加者による近況報告や思い出話などを聞くことにより、場の空気が和み、しばらく忘れていた若かりし日の記憶を蘇らせてくれました。なぜ東京教育大・筑波大を選んだのか、学生時代の忘れられないエピソードや恥ずかしい思い出など、どれもが味わい深いものがありました。それぞれ自分の身に重ね合わせて聞いているうちに、大学で過ごした4年間のかけがえのないものであったのか、そしてそれが、現在の自分を形作る基礎となっていたことに気づかされます。東京教育大卒業生の会員、つまり62歳以上の方からは、定年退職にあたっての心構えや高齢化社会を生き抜く上での「知恵」など、めったに聞くことのできないアドバイスをいただき、たいへん有意義なものでした。

会では、今後の発展に向けて、「教育大卒業生にもっと声がけしよう」「現役の筑波大生が参加しやすいような

環境作りが必要だ」といったアイデアも出されました。懇親会の最後では、参加者全員が輪になって宣揚歌「桐の葉」を歌いました。実は、これまで支部の会合で宣揚歌を歌う場面がなかったのですが、やっぱりこの歌で締めようという支部長からの提案もあり、肩を組み、リズムを合わせて声高らかに歌いました。中には三十数年ぶりに歌ったという会員もおり、大いに高揚した気分です。会を終えることができました。

宮城茗溪会活動報告

平成29年度、宮城県では全国的な催しがいくつも行われ、平成23年の東日本大震災以降全国からの支援を頂きながら、着実に復興が進んでいることを感じさせています。紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

なかでも高校生にとって最大のスポーツの祭典である全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が、福島・山形・宮城の南東北三県で、『繋がる絆 魅せよう僕らの若い力』のスローガンのもと開催され、多くの若人が集い、熱い戦いを繰り広げました。宮城においては11競技が行われて、選手・監督・コーチや応援の人々をお迎えしました。三県合同の同大会は大成功のうちに終了しました。加えて、多くの茗溪関係者も訪れ大会を盛り上げるとともに、競技ごとによる茗溪会も行われ、更なる親交が深められたことも重ねて報告させていただくとともに御礼申し上げます。

平成29年度の宮城茗溪会は、11月25日（土）、仙台市内の「ホテル白萩」にて開催しました。茗溪会本部より川田孝一理事が来賓としてお越しくださいました。

会は、平成28年度・29年度上期活動報告。加えて会計報告。本年度は該当者なしということで叙勲関係の報告がありました。その後、29年度後期からの新役員について



ての協議が行われ、新会長をはじめとする28名が承認されました。次期総会についても30年11月24日（土）に開催を予定することが決められました。

本部から来られた川田理事からは、筑波大学の活性化に向けて今後の取り組みが報告されるとともに、各地区ブロックの合同茗溪会を平成31年度までに全ブロックで行っていくという本部目標が伝えられました。平成30年度は、北海道・東北ブロックでの開催を計画し、宮城での開催を希望されておりました。今後調整が行われるものですが、新役員もこの開催を前向きにとらえ、ブロック地区の情報交換のみならず、支部茗溪会の更なる交流の機会としていくことを確認しました。

結びに茗溪会のみならずの発展を心からお祈り申し上げます。と同時に今後とも宮城茗溪会をよろしく願っています。

神奈川茗溪会活動報告

神奈川茗溪会の本部登録数は3,564名です。数年前にこれらのすべての方々に総会の案内を送り、その後住所間違いで戻ったりした数を引き、また案内を出しても返信してくれる気配の無い方を引き去り、29年度は1,060余名に総会・講演会・懇親会の案内を出しました。7月に行いましたそれらの会には53名が出席し、毎年のとおりにぎやかに楽しいひと時を過ごし、最後は宣揚歌で締めると言う鉄板の展開を繰り広げました。或る参加者の挨拶に曰く、「神奈川茗溪会の総会に参加するのは、お盆で故郷に帰るようなもの。」「けだし名言！一同納得いたしました。

今年度の講演の講師は神奈川茗溪会の副会長の一人で



ある中道徹氏（筑波第二生物S59卒）であり、『ジェネリック医薬品について』というタイトルで、医薬品の特許に関する内容を、専門的ながらもわかり易く説明していただきました。氏は筑波大学生物

学類の出身で、はじめは生物の教師としての社会人スタートでしたがその後弁護士資格を取り法律事務所を開設しておられます。生物学と法律という一見相容れそうも無い分野ながら、見事に氏のキャリアを活かして融合させ大活躍されています。そんな奈川茗溪会の誇りある仲間のお話を一同感心しながら興味を持って伺いました。さて、会員登録の内容から考えると筑波大学になってからの登録者が過半数なのですが、今回の総会参加者は東京教育大が33名、筑波出身者が20名でした。また教育界からの参加者がほとんどで企業等が4名。50歳以下の参加者が2名といった具合です。

こうした現状を改善し、筑波出身者の積極的な会への関与や教育界以外からの参加者を増やすために、本会の副会長に会員開拓の役割を付し、副会長9名のうち2名を企業担当者としています。また若手の参加者を増やすイコール、教育界以外の参加者の増加ということなので、若手を主体（平成生まれの卒業生）とした「若手の会」を作り奈川茗溪会が応援しています。しかし、そのあたりの年齢では家族も若く仕事も忙しい状況のためなかなか仲間を増やす活動に力を入れられない現状もあります。

こうしたことから、これからは総会と講演会という硬めの内容だけでなく、ゴルフコンペを開催する試みも計画しています。また若手をいち早く仲間に入れるためにも本県の教職を希望する学生に茗荷谷の茗溪会本部の一室をお借りして試験対策を実施しております。

構造的な会員構成から生じる課題、世代間の課題は他の都府県の場合も同じだと思えます。今後は境を越えて

課題を解決するアイデアを出し合いました。

常陽銀行茗溪会活動報告 仲間の顔が見える「常陽銀行茗溪会」総会に参加して

平成29年7月2日、歴史を偲ばせる水戸城跡の一角で藩校弘道館、旧県庁等が並ぶ水戸京成ホテルを訪ねた。この日正午から予定されている「常陽銀行茗溪会」総会前に、当会名誉会長である西野虎之介（茗溪会前理事長）氏や同会長の萩原 篤氏などと茗溪会岩田敏昭事務局長代理、川田孝一組織委員会委員長との間で次のことについて情報交換を行った。

①茗溪会の基本大綱では、一つの柱として歴史と伝統を背景とした教育界の全国ネットワークの推進、新たな柱として行政・企業界等の全国ネットワーク作りを課題としている。

母校の筑波大学を卒業した同窓は、全国の各地域で活躍しているが、組織としての活動の充実が求められている。たとえば、東京茗溪会は、「茗溪・筑波企業人の会」を組織化し、毎月第三水曜日に茗溪会館で活発な情報交換を行っている。他の地域組織でも異業種交流活動が行われている。茗溪会は、筑波大学の同窓の期待に応えるために教育界以外の分野を中心とした新たな組織作りを推進していくことが求められている。

②組織委員会は、地域組織等活動の活性化を主要課題とし、隣接地域間の地域組織ブロック代表者会議の開催を含め12の事業計画を設定した。

特に、異業種交流活動については、平成29年3月から、「茗溪経済クラブ」と「筑波みらいの会（筑波大卒企業人）」の代表者による情報交換会を行い、新たに、どのような組織活動が可能なかなどについて精力的な協議を重ねている。

双方が考える今後の展望の概要は、次のようなものである。



・（筑波みらいの会）

筑波大学と協力して、企業人と学生との効果的な関わりを制度化を試みている。

・（茗溪経済クラブ）

企業人組織として茗溪関係組織との交流を図り、情報交換や学生支援を推進する。

将来は、新しい企業人会の発掘や既存の組織による連携を推進すると共に、企業人と学生の交流の場等の設営を図り、学生の期待に応える。

③常陽銀行茗溪会の名誉会長である西野虎之介氏からは、常陽銀行および茗溪会のレジェンドとしてのお立場から、当会の日頃の主な活動や茗溪会の今後の活動に期待する事柄などについてお話をいただいた。

「常陽銀行は、地元銀行として毎年、筑波大学の学生を採用している。おかげさまで現在の会員数は、15名である。

同じ企業の中で、青春時代を過ごした同窓が切磋琢磨することで銀行人として活躍することを期待している。また、茗溪会に対しては、今後、継続的な交流が必要だと思うが、当面、茨城県において県内企業等への就職を希望している筑波大学生に向けた学生支援のあり方として、何が出来るか」を中心とした県内企業との交流を進めたいかがかと思う。」

◎「常陽銀行茗溪会」総会に参加して

総会には、今年度の新規採用者を含めて約60名が参加していた。まずは、名誉会長の西野虎之介氏から、参加者への激励と期待をこめた挨拶があった。続いて、平成28年度活動及び会計に関する報告、更に、新役員の選出等について協議が行われた。特に、新規採用者の挨拶は、緊張感のある「若き力」がみなぎる内容であり、諸先輩からの温かい拍手が印象深かった。その後の懇親会では、各職域を越えた温かい雰囲気の中で仲間同士の交流が行われていた。

また、7月2日は、茨城茗溪会総会が連携開催され、常陽銀行茗溪会からは、新入会員の紹介を兼ねて会長及び有志の方が参加された。

（文責 組織委員会 委員長 川田孝一）

平成30年度 一般社団法人茗溪会 公益・共益・広報等 年間行事計画

1. 公益事業

(1) 公開講座

① 東京地区

(その1)「英語シリーズ」第17回 講師：藤原 保明 先生

日時：7月28日(土)予定

会場：茗溪会館

② つくば地区 共催 筑波学都資金財団

(その1)「マンガからMANGAへー編集現場から見る日本漫画の歴史ー」

講師：由利 耕一 先生

日時：9月22日(土)予定

会場：筑波大学学生会館

* 公開講座の報告(概要)等は、季刊誌「茗溪」に掲載の予定。

* 地域組織等が主催する公開講座、講演会の共催・助成も行う。

(2) 顕彰(第17回)

① 対象 筑波大学の教育・研究活動の内容を、社会に対してわかりやすく伝えるアウトリーチ活動等に従事し、大学院における勉学や研究の成果を生かした顕著な社会貢献活動を行なった修了者(1年以内に修了した者を含む)並びに、優秀な作品を制作した芸術専門学群の学生等とする。

② 対象者の選定

各専攻修了者のなかから専攻長が推薦する大学院生等について、学内におかれた選考委員会で選考した結果について、理事長の承認を得る。

③ 授与方法 各専攻の学位記授与式において専攻長より「茗溪会賞」(顕彰状及び副賞)を授与する。

* 顕彰者及びその活動内容については季刊誌「茗溪」に掲載する。

* 一般社会人を対象とした社会貢献活動の顕彰については、公益事業の見直しに伴い終了する。

2. 共益事業

筑波大学生活動等への支援強化、会員の世代間や各地域組織等をつなぐ活動の充実強化、会員相互の交流の推進等を図る。

(1) 「追悼のつどい」の開催

脱・宗派として開催し、遺族、関係者を招き、逝去された会員等の遺徳を偲ぶ。

期日：平成30年9月1日(土)予定

会場：茗溪会館

(2) 学生の就職活動を支援するため、大学が開催する各種講座への情報提供及び協力。

(3) 年始と暑中見舞いの時期にあわせて、会員間の交流を深めるための広告を季刊誌「茗溪」に掲載。

3. 広報事業

(1) 季刊誌「茗溪」の発行

季刊誌の発行は年4回とし、特集記事、筑波大学関連の記事、会員情報等を中心に内容の充実に努める。

なお季刊誌「茗溪」の配布先は4回とも正会員のみとし、春号と秋号の配布に際しては筑波大学新聞を同封する。

(2) 茗溪会HP掲載内容等の充実

茗溪会HPでは、季刊誌「茗溪」を再掲するほか、茗溪会主催の公開講座の情報、各地域組織の活動状況、企業人の集まりの情報、筑波大学関連の各種情報等をスピーディに掲載し、季刊誌「茗溪」とあわせて、会員相互の連携を深めるためのツールとして、一層の充実を図る。

筑波大学は今

リニューアルオープン UT shop きりのは／筑波大学サテライトオフィス

本学公式オリジナルグッズ販売店舗「UT shop きりのは」(大学会館2階)と、本学情報発信拠点「筑波大学サテライトオフィス」(つくば駅前 BiViつくば2階)が、それぞれ2月21日と3月20日に、リニューアルしました。これに伴い、「UT shop きりのは」では、木製USBや校章入りどら焼きなどの新しいグッズも登場しました。



「筑波大学サテライトオフィス」(BiViつくば)



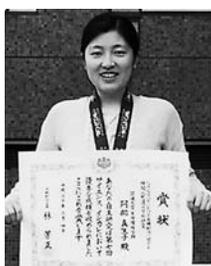
「UT shop きりのは」入り口(大学会館)

「筑波大学サテライトオフィス」は、本学に関する基本的な情報を提供する場として2015年9月に設置され、本学の学生がスタッフとして活動しています。大学概要や各学群・学類・研究科のパンフレット、入試案内などを配布するほか、本学に関連する書籍の貸し出しなども行っています。また、本学の教職員や学生が企画するさまざまなイベントも開催されています。いずれも、芸術系木村浩研究室の監修によるデザインで、本学らしさが感じられる空間になっています。

第7回サイエンス・インカレで本学学生3名が受賞

3月3日、4日に立教大学で開催された第7回サイエンス・インカレにおいて、生命環境学群2年の阿部真生子さんが口頭発表の部で、最高の文部科学大臣表彰、同じく4年の及川泉さんがサイエンス・インカレ審査員特別賞、同じく荒井怜奈さんがグッドパフォーマンス賞を受賞しました。

阿部真生子さんは本学が実施する「未来を創る科学技術人材育成プログラム 筑波大学CHEST(ジーフェスティン Science and Technology)」の修了生です。



阿部真生子さん



及川泉さん(左)と荒井怜奈さん(右)

スーパーグローバル大学創成支援事業 本学が中間評価で最高S評価

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の第1回中間評価において、本学が実施する「トランスボーダー大学がひらく高等教育と世界の未来」タイプA(世界レベルの教育研究を行うトップ大学)が、最高の「S評価」を受けました。

スーパーグローバル大学創成支援事業は、世界レベルの教育研究を行う「タイプA」と、日本社会のグローバル化を牽引する「タイプB」の2種類があり、本学はタイプAの13校のひとつとして採択されています。中間評価では、特に大学や国境を越えて科目履修を可能にする「Campus-in-Campus」や、世界トップレベルの研究者を招き、本学にサテライトラボを形成することで国際的連携を促進する「海外教育研究ユニット招致」が高く評価されました。

五十殿利治特命教授が 第68回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞



芸術系の五十殿利治特命教授が、第68回芸術選奨の評論等部門において、著書『非常時のモダニズム 1930年代帝国日本の美術』(東京大学出版会、2017年)の成果により、文部科学大臣賞を受賞しました。

受賞理由は「五十殿利治氏の研究は、ロシアアヴァンギャルドを視野に入れたことで、西欧美術との関係を重視してきた日本の近代美術史研究の可能性を大きく広げ、戦争へと向かう時代に美術家がどのように「前向き」に表現と取り組んだかを丹念に追跡し、モダニズムが国境を越える国際性を有しながらも、彼らの生きる社会が国家による統制を強めていくさまを浮き彫りにした。」というものです。

柳沢正史教授が2017年度朝日賞を受賞



国際統合睡眠医学研究機構(WPI-IHS)、機構長の柳沢正史教授が2017年度朝日賞(朝日新聞文化財団主催)を受賞しました。柳沢教授は、本学大学院在学中の1988年、血管収縮物質エンドセリンを発見した後に渡米し、1998年には新規の神経ペプチドを発見、オレキシンと命名しました。1998年には新規の神経ペプチドを発見、オレキシンと命名しました。睡眠覚醒研究を統括しています。今回の受賞は、オレキシンとその睡眠覚醒への関与の発見に始まる長年の成果が評価されたものです。

茗溪学園だより

SS研究・個人研究発表会（後援：筑波大学）

2月21日、今年で10回目となる標記発表会が、会場を3年ぶりに筑波大学の学生会館に戻し、SSH活動報告会（平成29年度より2回目のSSH指定校となっている）と合わせて開催されました。

開会セレモニー全体会では、田代校長の挨拶に続き、筑波大学副学長清水論先生よりご祝辞を頂戴しました。

その後、昨年7月に行われた「SSH屋久島研修」の調査研究成果の生徒発表がありました。

続く分科会での研究発表は口頭発表が28名、ポスター発表は個人課題研究として30名、その他科学部の研究やSSHプログラム報告など12件でした。

閉会全大会では、SSH海外研修（タイ研修および上海研修）の発表があり、結びに筑波大学佐藤忍先生の講演をいただきました。

大学関係者の皆様、他校の先生方や保護者など、多くの方々のご来場がありました。本校生に交じって発表を聞き、質問もしていただきますので、発表者は緊張もしますがまたとない学びの機会となりました。



清水論筑波大学副学長のご祝辞 (大会会館講堂)



口頭発表：研究テーマは「植物内生菌と宿主植物の相互関係」(分科会C会場)

ISS宇宙実験 JAXA主催「Try Zero-G」

これは、「アジアの高校生が提案する実験をISS国際宇宙ステーションで行う」という企画で、アジア各国と日本から寄せられた実験テーマ(109件の提案があった)から選ばれた8件の中に、本校生徒の提案も入りました。本校生は、科学部物理班で活動している高校1年生の5名で、「針金ゴマの挙動」という実験テーマでした。針金で作った質量分布が不均等なコマを回して逆立ちさせるものです。過去にもISSで逆立ちゴマの実験は行われたことがあり、その実験とは異なる提案でした。

8月筑波宇宙センターにおいて、ISS内で実験をしてくださる金井宣茂宇宙飛行士との打ち合わせも行われました。そして今年2月13日、いよいよ実験の日を迎えました。宇宙センターの「きぼう」管制センターに各国の提案者が集い、モニターを見ながら金井宇宙飛行士とコミュニケーションをとって実験を進めました。

生徒達は、実験結果にさらに考察を加え、成果発表をすることになっています。

「自由と規律」を読む 高校1年読書会

池田潔の名著「自由と規律」は、本校創立時からの指定図書で、高校1年の1月には読書会が行われます。少人数の班単位で実施していた頃もありましたが、現在は

本校生は、寮生活はじめて多くの行事を体験します。その活動には困難も辛いこともあります。それを仲間と共に乗り越える時、人として大切なものを学び身につけます。この読書会は、茗溪学園での生活を自分自身に問い直す機会とするものです。

部活動など結果報告(11～2月)

【中学全国大会】

◎ラグビー部：第37回東日本大会2年連続16回目の優勝、全国ジュニアラグビー大会Bグループ準優勝 ◎全国中学スキー大会：3年連続出場 ◎バドミントン部：全日本中学大会(3月奈良市)茨城県選抜選手として男子3名が
出場

【高校全国大会】

◎ラグビー部：第97回全国大会2回戦敗退、第19回全国選抜大会3年連続11回日出場(3～4月熊谷) ◎バドミントン部：全国選抜大会出場(3月松山市)

【高校県大会、関東大会】

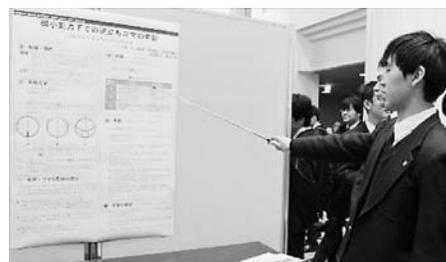
◎ラグビー部：関東新人大大会3位 ◎バドミントン部：県新人大大会男子団体優勝、関東選抜大会2回戦敗退、男子ダブルス準優勝 ◎剣道部：県新人大大会男女ともベスト4

【文化部】

◎美術部：第62回全日本学生美術展・全日本学生美術会賞受賞(団体最高賞29回目)、個人賞＝推奨3名特選1名佳作24名37作品(美術部員以外7名)、第61回旺文社主催全国学芸サイエンスコンクール・大日本印刷学校特別奨励賞、絵画部門中学入選4名・高校入選1名、県高校総合文化祭美術展入選6名(第42回全国高校総合文化祭・信州総文祭に県代表として出品) ◎書道部：第68回全国少年新春書道展・特選1名準特選3名、茨城新聞学生紙上展・水戸市教育委員長賞1名優秀賞4名、茨城県高校芸術祭書道部・特別賞1名入選6名 ◎科学部生物班：第58回自然科学観察コンクール佳作(応募作品4081中17位以内・中3グループ3名)「ショウジョウバエの味覚に関する研究」 ◎科学部無線工学班：フィールドデーコンテスト全国1位(17年連続)、ARDFは全国ARDF大会他で多数の上位入賞(優勝も含む) ◎第27回日本クラシック音楽コンクール声楽部門：高校女子の部に高2出場



ポスター発表の様子



宇宙実験と逆立ちゴマの説明をする科学部物理班員(大会会館発表会会場)

◆東京教育大学文学部哲学専攻1960年度1学年「よしみ会」
 と き 平成29年11月10日(金)～11日(土)
 ところ 千葉県 休暇村館山

丹野顕君の小惑星への命名のお祝い兼ねた、初めての同窓会でした。松永江哉君の霊への黙祷、祝辞・答辞の後、卒業以来の歩みと近況を報告し合いました。お互い半世紀ぶりに会う者も少なくない中で、顔を合わせればすぐ打ち解け、懐かしんで談笑する、とても和やかな雰囲気でした。同窓の誼みの息の長さを感じさせられた二日間でした。



◆平成29年度 静岡県茗数会総会
 と き 平成29年11月25日(土)
 ところ マイホテル 竜宮

私たちは、静岡県内の高校の数学教員の集まりです。もう、40年以上続いているということで、最年長の方に話を伺うと昭和45年には開催されていたということで、昭和45年を初回として第48回総会と決めました。当日は、研究発表、話題つくりのプリントなどもあり、数学科らしい会合となりました。(文責：高田道雄)



◆筑波大学1期生柔道部同期会
 と き 平成29年12月16日(土)
 ところ 徳島市(阿波おどり会館他)

3回目の柔道部同期会を徳島市で盛大に開催することができました。還暦を過ぎた同期生20名の内12名が参加し、半生を振り返り互いの無事をよこごび合いました。二次会では、阿波おどり会館で有名連の実演を鑑賞後とびいりて踊る阿呆の一員となり特別賞をもらった者(3名)もあり、四次会まで徳島の夜を堪能しました。(幹事：前田芳人、野中道兼)



◆ジャカルタ茗溪会
 と き 平成29年12月17日(日)
 ところ インドネシア共和国チェンカレンゴルフクラブ

昨年9月13日(水)にジャカルタ市内の居酒屋に8人の同窓が集合。その席で「今度はゴルフをやろう!」ということになり、ジャカルタ郊外のゴルフ場に4人が集合。学生時代の陸上競技やラクビーの経験者は豪快のショットを披露、ゴルフクラブ出身者は、小技を駆使して、お互いの親睦を図り、プレー終了後は、もう一人が合流。地元の餃子屋で冷たいビールと美味しい中華料理で大いに盛り上がりました。(文・写真：遠藤滋)



◆農林学類10期生卒業30周年同窓会
 と き 平成30年2月3日(土)
 ところ 筑波大学第2大食堂

この3月で卒業30年を迎えるにあたり、思い出深い第2大食堂で同窓会を開催しました。クラス担任を担当していただいた2名の先生もご出席くださり、昔話や近況報告などで大いに盛り上がりました。話は尽きることなく、多くの方が二次、三次会にも参加されました。今後も定期的集まることを予定しています。(柏原真一)



「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せください。

(写真) フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれかで撮影したもので結構です。紙焼きでも、デジタルカメラの場合はデータをメールでお寄せいただいても結構です。

(文章) グループの名称、お集まりになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31文字×5行以内でお願い致します。

一般社団法人 茗溪会(第七回)

平成30年度 定時総会開催のご案内

※日 時：平成30年 5月24日(木) 午後1時30分から

※場 所：茗溪会館二階「茗溪」の間

※議 題：平成29年度事業報告、決算報告、平成30年度事業計画(案)予算(案)及び役員選出(改選)。また、総会終了後、懇談会を予定しております。

平成30・31年度 一般社団法人茗溪会 代 議 員 一 覧

推薦地域組織	姓 名	卒年卒科・群	推薦地域組織	姓 名	卒年卒科・群	推薦地域組織	姓 名	卒年卒科・群
筑波大	清水 諭	平3 筑博体	東 京	柳 久美子	昭50教大体	静 岡	熊野 善介	昭55筑修教
筑波大	本谷 聡	平11筑修体	東 京	飯島 睦子	昭56筑修教	静 岡	齊藤 浩幸	昭58筑二農
北海道	大沼 寛	昭47教大武	東 京	田中 修	昭54筑二農	静 岡	綾部 信明	昭58筑体
北海道	山本 伸弘	昭52教大健	東 京	浅井 一郎	昭55筑一人文	愛 知	村松 利之	昭53筑体
青 森	花田 慎	昭56筑体	東 京	上村 肇	昭55筑一社会	愛 知	竹下 裕隆	昭56筑一社会
岩 手	佐藤 有	昭58筑二農	東 京	徳田 安伸	昭55筑二農	愛 知	高畑 尚弘	昭58筑二生
宮 城	小野寺清隆	昭55筑体	東 京	金田 喜明	昭56筑一人文	岐 阜	大橋 則雄	昭57筑二人間
秋 田	越後谷真悦	昭55筑体	東 京	竹村 恭一	昭56筑一自	滋 賀	脇坂 高峰	昭56筑体
山 形	津田 浩	昭58筑一自	東 京	笹 のぶえ	昭56筑二比文	三 重	阿形 克己	昭57筑体
福 島	新田 銀一	昭50教大数	東 京	渡邊 悟	昭62筑博農	京 都	川合 英之	昭56筑体
茨 城	仙波 操	昭50教大農経	東 京	久保 淳	昭56筑体	大 阪	松本 秀範	昭53筑修林
茨 城	郡司 丈児	昭53筑一人文	東 京	塩津 真	昭62筑修経	大 阪	岡村多加志	昭55筑一自
茨 城	武井 一郎	昭54筑一自	東 京	真当 哲博	昭57筑二人間	兵 庫	中野 憲二	昭56筑一人文
茨 城	高瀬 宏樹	昭55筑一自	東 京	秋葉 康浩	昭58筑二比文	奈 良	谷垣 康	昭53筑一人文
茨 城	鈴木 一弘	昭58筑修教	東 京	松村 直樹	昭61筑三社工	和 歌	山 土肥 二郎	昭57筑一自
茨 城	中島 博司	昭57筑一人文	東 京	堀川 勝史	昭61筑体	鳥 取	小倉 健一	昭53筑体
茨 城	萩原 篤	平1 筑修理	東 京	三橋 浩志	昭63筑一自	島 根	野々村 卓	昭58筑一人文
栃 木	齋藤 宏夫	昭58筑修教	東 京	井上 芳明	平1 筑体	岡 山	長尾 隆史	昭55筑体
栃 木	若杉 俊明	昭57筑一人文	神 奈 川	佐々木悦子	昭46教大体	広 島	大辻 明	昭47教大体
群 馬	市川 敏美	昭57筑二比文	神 奈 川	本木 幹雄	昭50教大体	山 口	吉本 晃	昭54筑二人間
群 馬	丸橋 覚	平2 筑修教	神 奈 川	山崎 紀彦	昭53教大農経	徳 島	安永 潔	昭55筑二農
埼 玉	奥谷 多作	昭34教大工芸	神 奈 川	大畑多津雄	昭52教大数	香 川	山本 主税	平1 筑一人文
埼 玉	矢嶋 章司	昭35教大体	神 奈 川	大石 進	昭56筑体	愛 媛	八木 俊博	昭57筑体
埼 玉	前島 富雄	昭47教大木工	神 奈 川	中道 徹	昭58筑二生	高 知	下坂 速人	昭53筑体
埼 玉	細田 幸一	昭50教大独文	山 梨	山本 英樹	昭56筑一自	福 岡	永沼 真紀	昭57筑体
千 葉	青木 寛	昭48教大武	長 野	平野 吉直	昭54筑体	佐 賀	小川 聡	昭55筑体
千 葉	植草 完	昭52教大体	長 野	田澤 直人	昭57筑一人文	長 崎	渡邊 孝経	昭59筑体
千 葉	内藤 秀子	昭53筑体	長 野	竹村 和也	昭57筑三基	熊 本	赤星 隆弘	昭58筑体
千 葉	猿渡 末治	昭55筑一自	新 潟	内野 信昭	昭56筑体	大 分	渚 洋行	昭53筑体
千 葉	小宮山伴与志	平1 筑博体	富 山	神田 聡	昭58筑修教	宮 崎	児玉 洋一	平2 筑三社工
東 京	中村 穎司	昭35教大國	石 川	濱辺 正実	昭53筑体	鹿 児 島	原口 和哉	昭56筑一自
東 京	高橋 誠	昭41教大心理	福 井	平井 喜浩	昭58筑体	沖 縄	前門 晃	昭58筑博理
東 京	桜井 裕	昭49教大政法						

『蘇る！100年の伝統 岡倉英語音声学』

著者 者…島岡 丘（30年教大英）
筑波大学名誉教授・シニアプロフェッサー
本の大きさ…A5判 全34頁
出版社…（株）甲文堂
発行年月日…2017年

岡倉由三郎先生考案「英語発音 練習カード」
（研究社1931復刻版注釈補足）

「正確な発音を学ぶことが英語上達の第一条件」

岡倉先生は綴り字を読み易くするように発音記号を併記されたが、島岡氏は更にSKT（カナ改良システム）を追加した。

目次概要

- I はじめに
- II 英語の子音
- III 英語の母音・二重母音
- IV 教室での英語練習
- V 後輩の一人から、岡倉先生のご出題に答えたい
- VI あとがき

（茗溪会事務局）



著書紹介

『教育における身体知研究序説』

著者 者…樋口 聡（53年筑体・58年筑博体）、王 水泉、釜崎 太
広島大学大学院教授
本の大きさ…四六判 全192頁
発行所…創文企画
発行年月日…2017年10月26日

《内容紹介》

本書は、このところさまざまな学問分野で関心が持たれ、研究が進められようとしている「身体知」とは何かという問題設定のもとで、「身体知」研究の広がり可能性を展望するものである。（中略）

「身体知」の研究によって、学校教育の常識が見直され、新たな学校の姿が生成される可能性がある。そして、学校教育が変わることによって、社会の文化状況にも新たな変化が起こりうるのである。本書によって、「身体知」と呼びうる「知」の様態が広く認識され、学校教育も含めた文化のあり様に向けての新たな一歩が踏み出されることを、われわれは願う。そのために、われわれは、教育に関心を寄せるすべての人に本書を読んでもらいたいと考えている。

【本書「まえがき」より】

このところさまざまな学問分野で関心が持たれ、研究が進められようとしている「身体知」とは何かという問題設定のもとで、「身体知」研究の広がり可能性を展望。或る特定の教科（例えば「体育」）を問題にするものではなく、教育についての新たな形での哲学的考察を展開する。

【「BOOK」データベースより】



追悼録 (敬称略)

北條 壽 18文四 29・11・12
〒214-0033 川崎市多摩区東三田1-2-17-505 次男 北條 茂

林 精一 22理四 29・8・2
〒157-0073 世田谷区砧4-8-9 長女 美濃 葉子

檜崎 學志 22体専 29・9・23
〒719-3145 真庭市西河内1169 長男 檜崎 賢士

市川 健夫 23文四 28・12・7
〒381-0202 上高井郡小布施町福原11 長男 市川 正夫

岡野 昭二 23理二 29・11・13
〒270-2261 松戸市常盤平2-14-23 妻 岡野 欣子

小松 一弘 23理二 29・11・8
〒300-1252 つくば市高見原1-5-233 子 小松 由紀

馬場 修司 25理二 29・11・3
〒381-1221 長野市松代町東条3498 次男 島田 稔

土橋 恭 26理一 28・1・27
〒190-0023 立川市柴崎町3-18-30-402 長男 土橋 文聡

小島己三夫 26農教 29・12・26
〒314-0027 鹿嶋市佐田645-7 妻 小島 昌代

橋本 理吉 27理一 29・11・5
〒194-0201 町田市上小山田町2930-1 妻 橋本 マレ

板垣 長 27理四 29・8・5
〒960-8254 福島市南沢又字北川原10-9 妻 板垣 元子

鳥居 大 28教大日史 29・12・16
〒467-0015 名古屋市瑞穂区十六町2-54 妻 鳥居 民子

森山 泰夫 29教大英 28・9・11
〒312-0036 ひたちなか市津田東4-3-17 長男 森山 伸一

宇田川 宏 30教大心 29・8・30
〒165-0032 中野区鷲宮1-21-2 妻 宇田川和子

室尾 和雄 30教大物 30・1・13
〒184-0012 小金井市中町2-24-48-2-205 長男 室尾 和之

梅津 彰人 31教大日史 30・1・9
〒203-0051 東久留米市小山1-17-11 長男 梅津 真人

菊野 俊熙 31教大漢 29・12・15
〒248-0033 鎌倉市腰越1718-90 妻 菊野 泰子

佐藤 一 31教大絵 29・11・11
〒234-0054 横浜市港南区港南台5-1-1-206 妻 佐藤 和子

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

和田 彰男 31教大数 30・2・3
〒206-0025 多摩市永山3-31-3-402 妻 和田 明子

江間 實 31教大農 30・1・24
〒272-0814 市川市高石神8-5 妻 江間みつ子

大西 路男 31教大農 30・1・13
〒167-0023 杉並区上井草3-33-17 妻 大西 久江

野々山時生 31教大体 29・9・4
〒334-0065 川口市前野宿72-56 長女 神成 洋子

土方 俊彦 32教大英 29・1・31
〒140-0004 品川区南品川5-8-19 妻 土方 佳子

池田 欣二 32教大体 30・1・3
〒653-0811 神戸市長田区大塚町5-1-25 妻 池田 公子

佐瀬 守行 32教大体 29・12・19
〒731-0137 広島市安佐南区山本1-13-9 長男 佐瀬 晋一

鈴木 圓蔵 32教大体 29・12・19
〒250-0023 小田原市米神238-10 長男 鈴木 明哲

小泉 正秋 33教大地 30・1・23
〒112-0002 文京区小石川2-19-3-401 妻 小泉満里子

毛利陽太郎 34教大教 27・9・7
〒158-0083 世田谷区奥沢5-11-12 妻 毛利恵美子

栗原 靖 35教大哲 29・11・7
〒619-0224 木津川市兜台2-1エスタ高の原2-301 妻 栗原 睦子

西出 良夫 36教大農経 29・9・22
〒206-0034 多摩市鶴牧1-17-D-601 妻 西出 昌子

村佐 忠 37教大農経 30・1・19
〒253-0002 茅ヶ崎市高田3-4-11 妻 村佐 祐子

佐藤 武彦 38教大体 29・9・17
〒422-8065 静岡市駿河区宮本町5-22 妻 佐藤 和代

村川 三男 42研 30・1・22
〒950-2055 新潟市西区寺尾上5-7-4 妻 村川チエ子

佐藤 敬助 49教大彫塑 29・12・5
〒852-8045 長崎市錦3-18-23 妻 佐藤 幸子

佐久間紀郎 55筑体 29・12・14
〒989-0246 白石市新館町6-20 長男 佐久間康太

前川 智宏 57筑二農 29・5・26
〒891-0144 鹿児島市下福元町9100-2 父 前川 寅麿



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹 (学校法人 茗溪学園理事)

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

茗溪会担当: 常務執行役員 人事部長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

OZONE 大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究所修了)

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi-e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

予告

公開講座

(1) 東京地区

(その1)

テーマ…「英語シリーズ」第17回
 講師…藤原保明先生
 日時…平成30年7月28日(土)
 14:00～15:30 予定
 場所…茗溪会館

(2) つくば地区

共催 筑波学都資金財団

(その1)

テーマ…「マンガからMANGAへ
 ー編集現場から見る
 日本漫画の歴史ー」
 講師…由利耕一先生
 日時…平成30年9月22日(土)予定
 場所…筑波大学学生会館

追悼のつどい

日時…平成30年9月1日(土)
 場所…茗溪会館

教職受験対策研修会

日時…平成31年2月9日(日)
 平成31年2月11日(火)
 場所…筑波大学



株式会社 阿部兄弟建築事務所

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル



代表取締役 荒井 豊人 (昭和57年 建築士)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

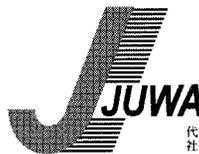
経営・労務・年金etc. コンサルタント

福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所長 福岡 一雄 (32教大法政)
 社会保険労務士



株式会社 十和観光

代表取締役社長 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail: travel@juwa.com
 〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
 TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

広告募集

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
 TSUKUBA WAY プロジェクト
 ~茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!~

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡) 2004年卒



スキューバダイビングの アセントツアー

東京都知事登録旅行業3-3443号

東京都港区赤坂6-13-19-502 03-3560-3381

取締役社長 川上 雄笹 (昭和45年 農芸化学卒)

<http://ascent.co.jp/> kawakami@ascent.co.jp

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケイエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1
 東京フジビル502号室

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)1578

常務執行役員 樋岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修に

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,700円から

茗溪会員とご家族に割引あり

研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に

シングル145室ツイン5室和室5室/研修室2室(120・40名)

和室も研修室として利用可(20畳、10畳)

館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等(数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車

●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車

徒歩8分●つくば駅からタクシー/5分

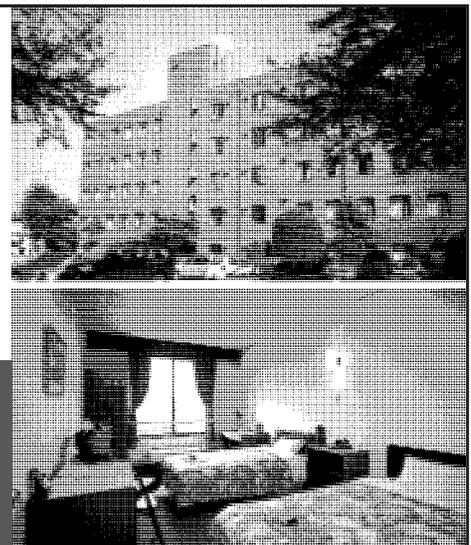
一般財団法人筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 1-13-5

TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: center@meikei.or.jp



「筑波大学新聞」 4月号を同封します

「筑波大学新聞」4月号を今年も同封致します。4月号には筑波大学への新入生の情報が掲載されており、会員の皆様から好評をいただいております。その他、筑波大学の様子も詳しく掲載されており、ご活用ください。

茗溪会から筑波大学支援の助成金を贈呈

本会では筑波大学の学生への助成金を贈呈しておりますが、最近では、茗溪会賞（芸術部門）と卒業式に対して助成金を贈呈しました。

卒業予定学生の就職活動にご支援を

来春卒業予定の筑波大学生のために、諸先輩のご指導ご支援をお願いいたします。

【問い合わせ・連絡先】筑波大学学生部就職課

企業・団体関係 電話 029-853-6001
教員・公務員関係 電話 029-853-2249

訂正

前号（平成30年正月号）で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P7 「特集 人間 嘉納治五郎を語る 第3回」

下段 左から4行目

(正) 倫理学

(誤) 論理学

P26 「平成29年度秋の叙勲」

瑞宝中綬章 岡田巖太郎

(正) 42教大院博植

(誤) 42教大院修植

P26 「平成29年度高齢者叙勲（9月）」

瑞宝小綬章 小島「三夫

(正) (茨城)

(誤) (静岡)

新しい表紙写真について

茗溪会副理事長 西川 潔

これまで4年間あまり、機関誌「茗溪」の表紙には小生撮影の筑波大学風景を載せてきました。今号から、新しく全国各地で活躍する、茗溪会会員からの写真で表紙を飾ることにしました。従来から機関誌の表紙は重要なコミュニケーションの場と位置づけ、できれば全国的広がりをもち茗溪会組織を、そこで表現できないかと、関係者で話し合ってきました。それが実現しました。以前、愛媛県松山市の総会（畑野智司会長）に出席した折り、芸術出身の徳森久子さんにアイデアを話したところ、賛成してくださり、その際の協力まで取り付けました。それが第1号として実った次第です。ありがとうございます。

今後、事務局より写真提供の依頼が届くと思います。ぜひ会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

表紙の言葉『梅と松山城』（愛媛県）

茗溪会愛媛支部では、毎年7月に、松山市で総会を開催しています。総会に駆けつけてくださった西川潔先生から、「表紙の写真を通して、会員同士のコミュニケーションを深めたい」というアイデアを伺い、この度、愛媛茗溪会から写真を提供させていただくことになりました。貴重な機会を与えていただき、感謝いたします。

愛媛には、しまなみ海道や、海に面した蜜柑の段々畑、日本七霊山の一つ石鎚山、神代からの歴史を誇る道後温泉など、素晴らしい風景や歴史的な資産が多くあります。しかし、愛媛を象徴するものを何かひとつだけと言われれば、やはり松山城でしょうか。松山城は、市内中心の小さな山の上であり、天守閣からは、遠く瀬戸内海の島々を一望することができます。ロープウェイで登ることもできますが、暖かい時期は、徒歩やリフトがお勧めです。春には、多くの観光客が訪れる桜の名所でもありますので、愛媛に来られた際は、ぜひ足をお運びください。

(愛媛茗溪会・徳森久子)

編集後記

今回の特集は、「産業界で活躍する卒業生」という観点から、茗溪会の理事でもあります河本さんにお話を伺いました。

今後いろいろな分野で活躍する卒業生にご協力いただき、企業が求めている人材像など、在校生の参考になるような記事もご提供できればと考えています。

春は、卒業、入学、入社、異動、引越と、日本では一年の区切りの時でもあります。

季刊誌「茗溪」は毎回発行ごとに、住所不明で100冊ほどが戻ってきます。

左欄にありますように、茗溪会との連絡パイプを切らさないようによろしくお願いいたします。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成30年4月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚 1-15-133

TEL 03-3944-1136

FAX 03-3944-1767

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 0015-0119-977

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学・大学会館内

TEL 029-850-1044

FAX 029-850-1045

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口 1-39-10

山浦印刷株式会社

この地に誕生し、85年。
時をつむぐ茗溪の館。



同窓会プラン～OB会・同期会・クラス会～

駅より徒歩1分

土日祝利用可

カフェ併設

人生の大切な時間を共に過ごした仲間と、思い出の地で過ごし絆を深める同窓会。



お一人様 6,000円 着席:6名様～立食:20名様～
※室料・サービス料・消費税は別途

・2時間完全貸切 ・フリードリンク付き(瓶ビール、赤白ワイン、ウイスキー、ソフトドリンク)

プラン特典

- ◆ 会場内横断幕設置
- ◆ ネームプレート貸し出し
- ◆ ステージ・マイク・音響設備
- ◆ 幹事様打ち合わせ場所ご用意

筑波大学在校生・卒業生・関係者 ご優待特典

[お食事のご利用時]

ご飲食合計金額より

10%引き

ご家族・ご親族様もご利用可能

※1Fカフェのご利用は対象外となります。

ご予約/お問い合わせ(宴会予約直通)

TEL:03-5319-1890 [11:00～20:00 毎月第2火曜休館]

[ご婚礼のご利用時]

費用総額より5%引き

その他、期間限定プラン
など季節に応じた特典も
多数ご用意しております。



ご予約/お問い合わせ(ブライダル直通)

TEL:03-5319-1888 [11:00～20:00 毎月第2火曜休館]

“嘉ノ雅”



KANOBI

茗溪館

MEIKEIKAN

東京メトロ丸ノ内線

「茗荷谷」駅 徒歩1分

かのび

検索

“結婚”の先にある、 幸せを。

出合いからご婚約そしてご結婚は、
キューピッドのフィールドですが、
絆を深め続けることは、さらに大事。

ここから新たな人生のスタートです。

「結婚読本」から、家族を大切にする
日本の心の文化を受け継ぐ、仲の良い
お二人の幸せを実感できます。



「結婚読本」をプレゼントします！

適齢期の方に“結婚の良さ”をお伝えする
心温まる真実の声を小冊子にしました。

●ご請求の上、ご家族でお読みください。

ご婚約

検索

毎週届くご結婚カップルの直接の言葉。
※ご婚約カップルに接したスタッフブログも更新中です。



キューピッドの 結婚

キューピッドは慶應義塾大学OB会の親睦パーティから発足して37年。結婚を誠実にお考えの方限定の会員制クラブです。

■パンフレット「The Cupid Style」をお気軽にご請求ください。

☎ 0120-0333-82

■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※入会に際して審査があります。



日本の心の文化を受け継ぐ結婚
Cupid Club

〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-11ヒューリック銀座数寄屋橋ビル7F 03-5524-3555 公式ホームページ www.cupid.co.jp

広告募集

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群(2016年開設)

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
学長 畑山 浩昭
入試事務室相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同)

¥ 6,500→平日¥ 4,800 休前日¥ 5,800

シングルA (バス・トイレ付)

¥ 8,200→平日¥ 6,200 休前日¥ 7,200

ツイン (バス・トイレ付)

¥13,800→平日¥ 9,800 休前日¥12,800

朝食バイキング ¥ 1,050→¥ 760

大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2

TEL 03 (3356) 4605

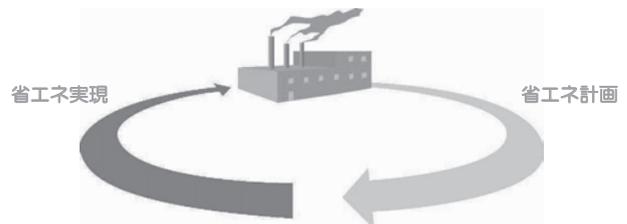
FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 1番出口
都営新宿線 新宿三丁目駅 C7出口
地下鉄副都心線 新宿三丁目駅 E2出口
} より徒歩7分
JR新宿駅より車5分

ENERGY SAVING SYSTEM FOR

YOU

熱エネルギーの有効利用



排熱 & 未利用エネルギー

MAKE THE MOST OUT
OF
YOUR WASTE HEAT

Osaka
Techno-crat

株式会社 大阪テクノクラート

<http://www.osaka-techno.com>

TEL: 03-5256-8261

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
- ◆ 国際バカロレア (IB) 認定校です
2017 年 4 月から IBDP 課程開始
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です

平成 30 年度公開行事

- 6月 2日(土) オープンキャンパス
- 6月 9日(土)・10日(日)
桐創祭(文化祭)
- 6月23日(土) 帰国生説明会
- 7月 7日(土) 高校受験生対象学園説明会



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)